

## コラム① 子供の「鼻」が引き起こす、意外な症状 ～鼻の調子が悪いと、こんな症状の原因にも！

今回から「耳鼻いんこう科」の診療についてご紹介させていただく訳ですが、教科書的な内容ばかりでは、つまりませんよね。

ネット社会となり、お子様をお持ちの親御さんは常に様々なサイトから、病気についての情報を手に入れられていると思います。

それらと同じ内容には、出来るだけしたくありません。

私のこれまでの20年余りの医師生活の経験から得た、できるだけ「耳鼻いんこう科を受診するきっかけとなる」情報をお届け出来たらと思います。

よろしくお願ひしますね。

それでは、本題です。

子供さんは風邪のほか、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎などでしょっちゅう鼻の調子が悪くなると思います。

今回は、「クシャミ、鼻水、鼻づまり」…以外の、鼻の調子が悪いと引き起こされる可能性がある症状につき、お話ししますね。

### ●その1 「咳」

始めにおことわりしておきますが、すでに「気管支喘息」と診断がついている慢性的な咳は、のぞきますね。

「小児科」でしっかりと継続した治療を受けてください。

ただし…喘息はアレルギー性鼻炎と非常に、非常に関係があります。

これについては、コラム③であらためてお話ししますね。

よくあるのが、子供さんが「風邪を引いたあとなど」に、「特に夜間を中心とした咳」

が続く場合。

小児科で「風邪」あるいは「気管支炎」として咳どめなどを処方されているが、なかなか改善しない場合には、一度、耳鼻いんこう科で「鼻」のチェックを受けてください。

でも小児科ですでに、鼻水の薬ももらっているのだけど…  
そうですね。

しかし、「鼻の中」を直接診察し、処置ができるのは「耳鼻いんこう科だけ」なので  
す。

私の経験上、咳が続く子供さんは、おおむね「鼻がつまって」います。

鼻がつまると、どうして咳が出るのかって…？

「口呼吸」と「後鼻漏（こうびろう）」がキーワードです。

鼻の粘膜には、吸い込んだ空気のホコリなどを取り除き、適度に加温、加湿する機能があります。  
鼻がつまって「口呼吸」となると、外気をそのまま口から吸いこむこととなります。

乾燥した、ホコリっぽい、冷たい空気がのどや気管支を直接刺激し、咳を引き起こし  
ます。

また、「後鼻漏（こうびろう）」とは、鼻水が鼻の入り口とは逆に、「のどのほう」へ  
流れおりましたものです。

量が多いと、口をあけてみたとき、口蓋垂（こうがいすい→のどちんこの事）の後ろ側に、後鼻漏が流れおりにているのがハッキリと見えることもあります。

鼻水が多く、さらに鼻がつまっていると、後鼻漏の量が増加します。

流れおりました後鼻漏はのどを刺激し続け、咳を引き起こします。

後鼻漏は、大人の慢性的な咳の原因となることもあります。

夜間は昼間より鼻の調子が悪くなることが多く、さらに後鼻漏が増加します。

よって夜間、咳が悪化しやすいのです。

特に子供さんは、鼻の治療を行い、鼻づまりや鼻水を改善するだけで咳がとまることがよくあります。

## ●その2 「口臭」

口臭は、子供さんの「鼻づまりによる口呼吸」が原因となることが多いです。

「アレルギー性鼻炎」「副鼻腔炎」など、慢性的な鼻づまりを引き起こす病気が原因となりますが、

特に「副鼻腔炎」が多い印象です。

口呼吸が続くと、口の中が乾燥して「雑菌」が増えます。

唾液には口の中の雑菌の繁殖をおさえる働きがあるのですが、乾燥してしまうと、これが十分に機能しません。

これが口臭の原因となります。

副鼻腔炎については、鼻水自体にも「におい」がありますので、先ほどお話しした、「**においのある後鼻漏**」が加わると、口臭がさらに悪化する印象です。

## ●その3 「鼻血」

子供さんが急に鼻血を繰り返すようになり、受診した耳鼻いんこう科では「心配いらない」と、止血法を説明されたのみで経過観察。

さらに受診した小児科では、「血液検査で異常なし」。

どうしたらよいのでしょうか…

このような場合には、おおむね「アレルギー性鼻炎」がかかれています。

「繰り返す鼻血をきっかけに、アレルギー性鼻炎が見つかる事」は非常に、非常によ

く経験します。

「**鼻炎＝鼻の炎症**」です。炎症を起こしている鼻の粘膜には、いつもより血液が多く流れています。

クシャミをしたり、鼻をさわったり、かんだりするとさらに刺激が加わり、鼻血が出やすくなるのです。

アレルギー性鼻炎の薬をしばらく使うと、鼻血が落ちつくことが多いです。

子供は絶対に、自分から「**鼻炎の症状**」は訴えません！

これは**コラム②**、**③**で、またあらためてお話しさせていただきます。

#### ●**その4 「頭痛」**

これは意外に思われるかもしれませんがね。

子供さんが頭痛を訴えると、親御さんは、まず小児科や脳神経外科を受診されると思います。それで良いのです。

「頭の中」に原因があってはいけませんので、まずはしっかりと検査を受けてください。

しかしそれでも原因がはっきりしない場合には、「**鼻の病気**」が原因となっている場合があります。

「副鼻腔炎」がまずあげられますが、これは**頭の CT や MRI でも異常がうつります**ので、しっかりとした小児科医や脳神経外科医であれば、親御さんに耳鼻いんこう科の受診をすすめると思います。

しかし、実は「アレルギー性鼻炎」も子供の頭痛の原因となることがあるのです。

むしろ私自身、こちらの方が圧倒的に多いのではないかと感じています。

アレルギー性鼻炎は副鼻腔炎と違い、**CT や MRI では異常がうつらず、見逃されること**

が多いのです。

つい先日も、病院を何か所もめぐった末に大学病院の小児科でも原因がはっきりしなかった子供の頭痛が、アレルギー性鼻炎の治療を開始したとたん、改善したというケースを経験しました。

お母さんの話ですと、すでに以前よりアレルギー性鼻炎の診断を受けていたそうですが、他の耳鼻いんこう科を受診した際に、「アレルギー性鼻炎は頭痛の原因にはならない」と言われていたそうです。

耳鼻いんこう科医師の一部は残念ながらまだ、「頭痛の原因は副鼻腔炎のみ」で、アレルギー性鼻炎は関係しないと思っているのです。

アレルギー性鼻炎で鼻の粘膜が腫れ、空気の通りが悪くなり、少し難しいのですが、「副鼻腔が陰圧になる」のが頭痛の原因とされています。

アレルギー性鼻炎は朝方、症状が悪くなりやすいです。

子供さんがとくに朝、頭痛を訴える場合には一度鼻のチェックも受けてみてくださいね。

さきほどの繰り返しとなりますが、子供は絶対に、自分から「鼻炎の症状」は訴えません！

今回はここまで。

次回は、「ホントは怖い、子供の鼻づまり」です。

私が特に、診療に特に力を入れている分野のお話です。